



ASTON MARTIN

2016.10.17

報道関係各位

アストンマーティン・ジャパン

PressRelease

アストンマーティン・レーシング、WEC 富士 6 時間レースで優勝

- 98 号車の V8 Vantage GTE がポール・トゥ・ウィンでクラス優勝
- 95 号車のティーム&ソーレンセン組は GTE Pro クラスのドライバー/チーム部門のチャンピオンシップ首位の座をキープ
- 残り 2 戦となる中、総合優勝に向けて良好なポジションを維持



2016 年 10 月 16 日、富士(日本):

WEC 世界耐久選手権第 7 戦の富士 6 時間レースが開催され、アストンマーティン・レーシング 98 号車の V8 Vantage GTE が、GTE Am クラスにおいて見事なポール・トゥ・ウィンを達成しました。

ポール・ポジションからスタートしたペドロ・ラミー(ポルトガル)は、オープニングラップで首位をキープすると、そのまま後続マシンとのリードを拡大。ポール・ダラ・ラナ(カナダ)とマティアス・ラウダ(オーストリア)も最初のスティントを確実にこなし、3 時間経過時点で 2 番手との差を 1 周以上に広げました。



ASTON MARTIN

アストンマーティン・レーシングは、第 6 戦のオースティンでも優勝しており、GTE Am クラスでは、2 大会連続でポール・トゥ・ウインを成し遂げたこととなります。さらに重要なことは、今回の勝利によって GTE Am クラスのポイント・リーダーとの差を 33 に詰めることができたことです。残り 2 戦で、最大 52 ポイントを獲得できるため、総合優勝の可能性がまだ残されています。

ペドロ・ラミーは、次のようにコメントしています。「最後までハードにプッシュしようと思いましたが、マシンも、最後のステイントまで素晴らしい状態を保っていました。とにかく後続マシンとの差を保つことに集中して走りました。今回勝利できたことはチャンピオンシップにとって素晴らしいことですが、GT マニュファクチャラー部門で、あと数ポイント、リーダーに届かなかったことは残念です。これからも 1 戦 1 戦集中して、残り 2 ラウンドでベストを尽くします」

ポール・ダラ・ラナは、次のようにコメントしています。「富士では、これまであと少しのところまで勝利できなかったのが、今回表彰台の中央に立ててとても嬉しいです。タフなレースになりましたが、最後には後続マシンにかなり差をつけることができました。83 号車にペナルティがなかったら、最終ラップで厳しいバトルになっていたでしょう。今回はミスをしなことが重要でしたが、皆その通りにやってのけました。チーム一丸となつての勝利です」

マティアス・ラウダは、次のように付け加えています。「オースティンに続いて、2 連勝することができました。クリーンなレースをして、ピットストップも完璧でした。マシンも素晴らしく、ステイント全体を通して非常に楽に走行することができました。フェラーリがドライブスルー・ペナルティを受けたのは幸運でしたが、我々はコンスタントなペースで周回を重ねていたのも、もしそれがなくても優勝できていたと思います。また表彰台に立てて嬉しいです」

GTE Pro クラスでは、ニッキー・ティーム/マルコ・ソーレンセン(共にデンマーク)組の 95 号車が 5 位、ダレン・ターナー(英)/リッチー・スタナウェイ(ニュージーランド)組の 97 号車が 6 位でフィニッシュし、チャンピオンシップ・リーダーの座を堅持。第 7 戦終了時点で、ニッキー・ティームとマルコ・ソーレンセンは、GTE Pro クラスのチームおよびドライバー部門で、2 位と 10 ポイントの差をつけて首位をキープしています。



ASTON MARTIN

チーム代表のポール・ハワースは、次のように述べています。「98号車のドライバーは、素晴らしい仕事をしてくれました。オースティンで勝利した勢いをそのまま、ここ日本に持ち込むことができました。GTE Am クラスでは、残りの2レースでこの力強いパフォーマンスを継続し、総合優勝を目指して、チャンピオンシップ・リーダーとの差を詰めてゆきたいと思っています。GTE Pro クラスでは、ポイント・リーダーの座を保つことに集中します。3週間後の中国ラウンドに向けて、チームの士気は高まっています。バーレーンの最終戦までハードワークを続けて、チャンピオンシップで最高のポジションを確保できるように最善を尽くします」